


音声を活用する

静止画に音声を追加する(アフレコ)

音声を付けずに撮影した静止画に、あとから音声を付けることができます(アフレコ)。あとから音声を付けた場合も、その静止画は音声付きの静止画(“”)が表示される静止画)になります。

音声付きの静止画の音声を録音し直すこともできます。

音声は、ひとつの静止画につき最長約30秒まで録音できます。

- 音声はモノラルになります。

1. 再生モードにして、**【◀】【▶】**で音声を追加したい静止画を表示させる
2. **【MENU】**を押す
3. “再生機能”タブ→“アフレコ”と選び、**【▶】**を押す
 - 静止画が表示されているときのみ操作することができます。
4. **【SET】**を押して録音を開始する
5. もう一度**【SET】**を押して録音を終了する
【SET】を押さなくても、約30秒経過すると録音は終了します。

追加した音声を聞くには

音声付き静止画の音声を聞くとときと同じように操作します(100ページ)。

■ 音声を録音し直す



重要

- 音声を消去、変更すると、音声を元に戻すことはできません。

1. 再生モードにして、**【◀】【▶】**で音声を録音し直したい静止画を表示させる
2. **【MENU】**を押す
3. “再生機能”タブ→“アフレコ”と選び、**【▶】**を押す
4. **【▲】【▼】**で“消去”を選び、**【SET】**を押す
 - 音声を消すだけにしたいときは、続けて**【MENU】**を押してください。
5. **【SET】**を押して録音を開始する
前の録音は消え、新しい音声録音されます。
6. もう一度**【SET】**を押して録音を終了する
【SET】を押さなくても、約30秒経過すると録音は終了します。

参考

- 音声のデータ形式などは以下のとおりです。
 - 録音形式:WAVE/ADPCM記録形式(拡張子はWAV)
 - 音声ファイルサイズ:約165KB(約5.5KB/秒で30秒間録音時)
- 録音時の注意事項については55ページをご覧ください。
- 次の画像に、音声を追加することはできません。
 - モーションプリント機能により作成した画像
 - メモリープロテクトをかけた画像

音声だけを録音する(ボイスレコード)

静止画や動画は撮影せず、音声だけを録音することができます。内蔵メモリーを使った場合、最長約36分46秒録音できます。

- 音声はモノラルになります。

1. モードダイヤルを“**BS**”に合わせて、**[SET]**を押す

2. **[▲][▼][◀][▶]**で“ボイスレコード”を選び、**[SET]**を押す

液晶モニターに“**🎤**”が表示されます。

3. シャッターを押して録音を開始する

- 録音中は、動作確認用ランプが緑色に点滅します。
- 録音中に**[SET]**を押すと、その部分にマークが付きます。再生するとき、マークの位置に簡単に移動できます。

4. もう一度シャッターを押して録音を終了する

- シャッターを押さなくても、メモリーがいっぱいになると録音は終了します。



録音可能時間

5. 続けて次の録音をする場合は手順3、手順4を繰り返す


- ボイスレコードをやめるには、【SET】を押し、“ボイスレコード”以外の設定を選んで【SET】を押してください。

参考

- ボイスレコードで録音した音声は、パソコンに保存して、QuickTimeで再生することもできます(154、164ページ)。
- 音声のデータ形式などは以下のとおりです。
 - 録音形式:WAVE/ADPCM記録形式(拡張子は,WAV)
 - 音声ファイルサイズ:約165KB(約5.5KB/秒で30秒間録音時)
- 録音時の注意事項については55ページをご覧ください。

■ ボイスレコードの音声を聞く

1. 再生モードにして、【◀】【▶】で再生したいボイスレコードの画面を表示させる

ボイスレコードの画面には、“”が表示されます。

2. 【SET】を押し再生を始める



音声の再生中にできること

早送り/早戻しする	【◀】【▶】を押し続ける
再生と一時停止を切り替える	【SET】を押す
マークの位置から再生する	一時停止中に【◀】【▶】を押し、希望のマークの位置で【SET】を押す
音量を調節する	【▼】を押したあと、【▲】【▼】を押す • 音量調節は、再生または一時停止中にだけできます。
液晶モニターの表示のオン/オフを切り替える	【▲】(DISP)を押す
再生をやめる	【MENU】を押す

撮ったものを整理する

ファイルとフォルダについて

本機では、撮影した静止画などのひとつひとつが、個別のデータとして記録されます。個別のデータのことを「ファイル」と呼びます。撮影したものをファイルとして扱うことにより、ファイル単位で消去したり、誤消去防止の設定をしたり、コピーしたり、といった操作が可能になります。

各ファイルは、本機が自動的に作成する「フォルダ」と呼ばれるまとまりにグループ分けされます。

ファイル、フォルダには、区別のための名前が付けられます。ファイル名、フォルダ名とも、本機が自動的に付けます。

- フォルダの構造に関して詳しくは、「メモリー内のフォルダ構造」(166ページ)をご覧ください。

	名前と最大作成数	例
ファイル	“CIMG0001”から“CIMG9999”までで、最大9999個のファイルが1つのフォルダに作成されます。拡張子は記録したファイルの形式によって異なります。 <ul style="list-style-type: none">• ひとつのフォルダに9999個のファイルが入っているときに次の撮影をすると、自動的に新しいフォルダができます。	26番目に記録したファイル名: CIMG0026.JPG └─┬─┘ 連番(4桁) 拡張子
フォルダ	“100CASIO※”から“999CASIO※”までです。 <ul style="list-style-type: none">• 最大900のフォルダが作成されます。 ※- 本機のベストショットモード(69ページ)にはオークションサイトへの出品を撮影する“オークション”のシーンを収録しています。このシーンで撮影した場合、フォルダ名は「100_AUCT」となります。 <ul style="list-style-type: none">- 本機のベストショットモード(69ページ)にはYouTubeサイトへアップロードするのに最適な動画を撮影する“YouTube”のシーンを収録しています。このシーンで撮影した場合、フォルダ名は「100YOUTB」となります。	連番100のフォルダ名: 100CASIO ※ └─┘ 連番(3桁)

参考

- フォルダ名、ファイル名は、パソコンで見ることができます。カメラの液晶モニターでの表示については、172ページをご覧ください。
- 保存できるフォルダ数、ファイル数は、サイズや画質、メモリーカードの容量によって異なります。


ファイルを消去できないようにする

大事なファイルを誤って消してしまうことのないよう、ファイルごとに、またはすべてのファイルに、消去防止(メモリープロテクト)を設定することができます。

重要

- メモリープロテクトをかけたファイルでも、フォーマット操作(11、33、136ページ)を行うと、消去されてしまいます。

■ ファイルごとにメモリープロテクトをかける

- 再生モードにして【MENU】を押す
- “再生機能”タブ→“プロテクト”と選び、【▶】を押す
- 【◀】【▶】でメモリープロテクトをかけたいファイルを表示させる
- 【▲】【▼】で“オン”を選び、【SET】を押す
メモリープロテクトがかかり、“”が表示されます。



- 続けて別のファイルにメモリープロテクトをかける場合は手順3、手順4を繰り返す

- メモリープロテクトの設定をやめるには、【MENU】を押してください。

メモリープロテクトを解除するには

手順4で“オフ”を選んで【SET】を押します。

■ 全ファイルにメモリープロテクトをかける

- 再生モードにして【MENU】を押す
- “再生機能”タブ→“プロテクト”と選び、【▶】を押す
- 【▲】【▼】で“全ファイル オン”を選び、【SET】を押す
これで、すべてのファイルにメモリープロテクトがかかります。
- 【MENU】を押す

すべてのファイルのメモリープロテクトを解除するには

手順3で“全ファイル オフ”を選んで【SET】を押します。

お気に入りフォルダを使う

お気に入りフォルダとは内蔵メモリーの中に用意されているフォルダで、通常の再生ではその中身を見ることはできません。思い出の風景や家族の写真、またはプライベートな写真などを入れておくと、メモリーカードを変えても、またはメモリーカードを入れていなくても見ることができます。好きな静止画をいつも持ち歩きたいときなどにお使いください。

重要

- お気に入りフォルダに登録できるのは、静止画だけです。音声付き静止画の場合は、静止画だけがお気に入りフォルダに登録されます。

■ お気に入りフォルダにファイルを登録(コピー)する

1. 再生モードにして【MENU】を押す
2. “再生機能”タブ→“お気に入り”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で“登録”を選び、【SET】を押す
4. 【◀】【▶】でお気に入りフォルダに登録したい静止画を表示させる
5. 【▲】【▼】で“登録”を選び、【SET】を押す
静止画がお気に入りフォルダに登録されます。

6. 続けて別のファイルをお気に入りフォルダに登録する場合は手順4、手順5を繰り返す

- 登録をやめるには、【MENU】を2回押してください。

重要

- お気に入りフォルダに静止画を登録すると、QVGA(320×240 pixels)のサイズに変更されます。お気に入りフォルダの静止画のサイズを元に戻すことはできません。
- お気に入りフォルダに登録したファイルをメモリーカードにコピーすることはできません。

参考

- 登録できるファイル数は、画質、内蔵メモリーの空き容量により異なります。

■ お気に入りフォルダの静止画を見る

1. 再生モードにして【MENU】を押す
2. “再生機能”タブ→“お気に入り”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で“表示”を選び、【SET】を押す

4. 【◀】【▶】でお気に入りフォルダの静止画を切り替える



お気に入りフォルダアイコン

5. 【MENU】を2回押す

お気に入りフォルダの表示が終了します。

お気に入りフォルダの内容をパソコンで表示するときは

1. カメラからメモリーカードを取り出す
2. カメラをUSBクレードルにセットする
3. カメラをパソコンから操作する

パソコン上では、お気に入りフォルダは“FAVORITE”フォルダとして表示されます。

ファイルをコピーする

内蔵メモリーからメモリーカードへ、またはメモリーカードから内蔵メモリーへ、ファイルをコピーすることができます。たとえば、自分のメモリーカードを使って撮影した画像を他の人のメモリーカードにコピーしてあげるときは、次のような手順になります。

- ① 自分のメモリーカードから内蔵メモリーにコピーする
- ② 自分のメモリーカードを抜いて、他の人のメモリーカードをセットする
- ③ 内蔵メモリーから、そのメモリーカードにコピーする



重要

- コピーできるのは、カメラで撮影した静止画、動画、音声付き静止画、ボイスレコードファイルだけです。
- お気に入りフォルダからのコピーはできません。
- コピーしたファイルをカレンダー表示した場合、ファイルはコピーした日付上に表示されます(109ページ)。

■ 内蔵メモリーからメモリーカードにコピーする

内蔵メモリーからメモリーカードにコピーする場合は、すべてのファイルがコピーされます。1ファイルずつ指定してコピーすることはできません。

1. ファイルをコピーしたいメモリーカードを本機に入れる
2. 電源を入れ、再生モードにして【MENU】を押す
3. “再生機能”タブ→“コピー”と選び、【▶】を押す
4. 【▲】【▼】で“内蔵→カード”を選び、【SET】を押す
コピーが始まります。“処理中です しばらくお待ちください”の表示が消えたらコピー終了です。
 - コピーが終了すると、内蔵メモリーからコピーした最後のファイルが表示されます。

■ メモリーカードから内蔵メモリーにコピーする

メモリーカード内のファイルをひとつひとつ内蔵メモリーにコピーできます。

1. コピーしたいファイルが入ったメモリーカードを本機に入れる
2. 電源を入れ、再生モードにして【MENU】を押す
3. “再生機能”タブ→“コピー”と選び、【▶】を押す
4. 【▲】【▼】で“カード→内蔵”を選び、【SET】を押す
5. 【◀】【▶】でコピーしたいファイルを選ぶ
6. 【▲】【▼】で“コピー”を選び、【SET】を押す
コピーが始まります。“処理中です しばらくお待ちください”の表示が消えたらコピー終了です。
 - コピーが終了すると、コピーを始める前に表示されていたファイルに戻ります。
7. 続けて別のファイルをコピーする場合は手順5、手順6を繰り返す
 - コピーをやめるには、【MENU】を押してください。

参考

- ファイルは、内蔵メモリーの一番大きい番号のフォルダにコピーされます。

消去する

プリントしたり、パソコンにコピーした画像のファイルは、メモリーから消去して、次の撮影のための容量を確保することができます。


ファイルの消去には、1つずつ消去する方法とすべてのファイルを1回の操作で消去する方法があります。

ここでは、併せてお気に入りフォルダ内のファイルの消去のしかたも説明します。

重要

- 消去したファイルは元に戻せません。消去する前に、本当に不要かどうかよく確認してください。
- メモリープロテクトのかかったファイルは消去できません。消去するときは、メモリープロテクトを解除してください(124ページ)。
- 音声付きの静止画を消去すると、静止画といっしょに音声ファイルも消去されます。


1 ファイルずつ消去する

1. 再生モードにして【▼】
()を押す




2. 【◀】【▶】で消去したいファイルを表示させる
3. 【▲】【▼】で“消去”を選び、【SET】を押す
 - 消去を中止したいときは、“キャンセル”を選んでください。
4. 続けて別のファイルを消去する場合は手順2、手順3を繰り返す
 - 消去をやめるには、【MENU】を押してください。

すべてのファイルを消去する

1. 再生モードにして【▼】()を押す
2. 【▲】【▼】で“全ファイル消去”を選び、【SET】を押す
3. 【▲】【▼】で“はい”を選ぶ
 - 消去を中止するときは、“いいえ”を選んでください。
4. 【SET】を押す
 - すべてのファイルが消去され、“ファイルがありません”と表示されます。

お気に入りフォルダのファイルを消去する

お気に入りフォルダ内のファイルも、1ファイルずつ、または一括して消去できます。

1. 再生モードにして【MENU】を押す
2. “再生機能”タブ→“お気に入り”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で“表示”を選び、【SET】を押す
4. 【▼】()を押す
5. 通常の消去方法と同様に操作して、ファイルを1ファイルずつ、または一括して消去する
 - 消去をやめるには、【MENU】を2回押してください。

その他の設定について

カメラの音を設定する


カメラの音について、次の設定ができます。

- シャッター音や操作したときの音の種類/音量
- 動画やボイスレコードの再生音の音量

■ 操作音の種類を選ぶ

1. 【MENU】を押す
2. “設定”タブ→“操作音”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定したい音を選び、【▶】を押す
4. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す
サウンド1～5：内蔵されたサンプル音が鳴ります。
切：音は鳴りません。

■ 操作音量を設定する

1. 【MENU】を押す
2. “設定”タブ→“操作音”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で“ 操作音”を選ぶ

4. 【◀】【▶】で再生したい音量を選び、【SET】を押す


- 音量は“0”（最小）～“7”（最大）の8段階の間で設定できます。
- 音量を“0”に設定すると、音は鳴りません。

参考

- 操作音の設定はビデオ出力時（105ページ）の音量にも反映されます。

■ 再生音量を設定する

操作音とは別に、動画や音声付き静止画の音量を設定することができます。

1. 【MENU】を押す
2. “設定”タブ→“操作音”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で“ 再生音”を選ぶ
4. 【◀】【▶】で再生したい音量を選び、【SET】を押す

- 音量は“0”（最小）～“7”（最大）の8段階の間で設定できます。
- 音量を“0”に設定すると、音は鳴りません。



重要

- 再生音の設定はビデオ出力時（105ページ）音量に反映されません。

起動画面のオン/オフを切り替える

カメラが記録している画像を、起動画面として液晶モニターに表示させることができます。

- 再生モードで起動画面の設定を行っても、**[▶]**(再生)を押して電源を入れた場合は、起動画面は表示されません。

- [MENU]**を押す
- “設定”タブ→“起動画面”と選び、**[▶]**を押す
- [◀][▶]**で起動画面にしたい画像を表示させる
- [▲][▼]**で設定内容を選び、**[SET]**を押す
入：選んだ画像を起動画面として表示します。
切：起動画面は表示しません。

参考

- 起動画面に設定できる画像は以下の通りです。
 - カメラに内蔵されている起動画面用の専用画像
 - 静止画
 - 音声付き静止画(音声は再生されません)
- 起動画面は、1つだけ登録できます。起動画面を変更すると、メモリー内の画像は上書きされます。
- 登録した起動画面は、内蔵メモリーをフォーマット(136ページ)すると消去されます。

画像の連番のカウント方法を切り替える

撮影時に画像に付く連番(123ページ)のカウント方法を切り替えることができます。

- [MENU]**を押す
- “設定”タブ→“ファイルNo.”と選び、**[▶]**を押す
- [▲][▼]**で設定内容を選び、**[SET]**を押す

メモリする：今まで撮影したファイルの連番を記憶します。ファイルを消去したり、空のメモリーカードに交換しても、記憶した連番からファイル名を付けます。

- メモリーカードにファイルが残っている場合で、残っているファイルのファイル名がカメラの記憶した連番より大きい場合は、残っているファイルの最大の連番+1からファイル名が付きます。

メモリしない：ファイルをすべて消去したり、空のメモリーカードに交換すると、ファイルの連番を継続せずに、0001番からファイル名を付けます。

- メモリーカードにファイルが残っている場合は、残っているファイルの最大の連番+1からファイル名を付けます。

カメラの日時を設定し直す

日時を設定し直したいときは、ホームタイムの都市(カメラを使用する都市)を設定してから日時を設定します。日時だけを設定し直したいときは、「ホームタイムの日時を設定し直す」の操作だけで日時を設定することができます。

重要

- 日時を設定する前にホームタイムを自分の住んでいる地域に設定しないと、ワールドタイム(133ページ)の日時が正しく表示されません。

■ ホームタイムの都市を設定し直す

1. **[MENU]**を押す
2. “設定”タブ→“ワールドタイム”と選び、**[▶]**を押す
現在設定されている内容が表示されます。
3. **[▲][▼]**で“自宅”を選び、**[▶]**を押す
4. **[▲][▼]**で“都市”を選び、**[▶]**を押す
5. **[▲][▼][◀][▶]**で自宅の地域を選び、**[SET]**を押す
6. **[▲][▼]**で自宅の都市を選び、**[SET]**を押す
 - 日本で使う場合は“Tokyo”を選んでください。
7. **[SET]**を押して、設定を終了する

■ ホームタイムの日時を設定し直す

1. **[MENU]**を押す
2. “設定”タブ→“日時設定”と選び、**[▶]**を押す
3. 日付と時刻を合わせる
 - [▲][▼]** : カーソル(選択枠)の部分の数字を変えます。
 - [◀][▶]** : カーソル(選択枠)を移動します。ズームレバー: 12時間表示と24時間表示の切り替えができます。
4. **[SET]**を押して、設定を終了する

■ 日付の表示スタイルを切り替える

画面に表示される日付の表示スタイルを3つの中から選ぶことができます。

1. **[MENU]**を押す
2. “設定”タブ→“表示スタイル”と選び、**[▶]**を押す
3. **[▲][▼]**で設定内容を選び、**[SET]**を押す
例) 2007年12月19日
年/月/日: 07/12/19
日/月/年: 19/12/07
月/日/年: 12/19/07

ワールドタイムを表示する

購入時に設定した自宅の日時とは別に、海外旅行などで訪問する都市の日時を1都市選んで表示することができます。世界162都市(32タイムゾーン)に対応しています。

ワールドタイムを設定する

1. 【MENU】を押す
2. “設定”タブ→“ワールドタイム”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で“訪問先”を選び、【▶】を押す
4. 【▲】【▼】で“都市”を選び、【▶】を押す
 - サマータイムを設定するときは、【▲】【▼】で“サマータイム”を選び、“入”に設定します。
 - サマータイムとは、夏の一定期間、日照時間を有効に使うため、通常の時刻から1時間進める夏時間制度のことです。
 - サマータイムの採用時期は国や地域によって異なります(日本では採用されていません)。



5. 【▲】【▼】【◀】【▶】で訪問先の地域を選び、【SET】を押す
6. 【▲】【▼】で訪問先の都市を選び、【SET】を押す
7. 【SET】を押して、設定を終了する

■ ワールドタイムとホームタイムの表示を切り替える

1. 【MENU】を押す
2. “設定”タブ→“ワールドタイム”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で“訪問先”を選ぶ
自宅 : ホームタイムの日時を表示します。
訪問先 : ワールドタイムの日時を表示します。
4. 【SET】を押して、設定を終了する

表示言語を切り替える

画面のメッセージの言語を変更することができます。

1. 【MENU】を押す
2. “設定”タブ→“Language”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】【◀】【▶】で設定内容を選び、【SET】を押す

■ 画面が外国語表示になってしまったとき



① 右側のタブを選ぶ

② 「Language」の項目
を選ぶ

③ 「日本語」を選ぶ

液晶モニターの明るさを切り替える

液晶モニターの明るさを切り替えることができます。

1. 【MENU】を押す
2. “設定”タブ→“液晶設定”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定値を選び、【SET】を押す

オート2/ : 周囲の環境を判断して、明るい環境下では自動
オート1 : 的に液晶が明るくなります。

「オート2」は「オート1」に比べて、より暗い環境
から液晶が明るく切り替わります。

+2 : 「+1」に比べてさらに液晶が明るくなり、見やす
くなります。反面、消費電力が大きくなります。

+1 : 屋外などの明るい場所を使用する場合の設定で
す。「0」に比べて液晶が明るくなり、見やすくな
ります。反面、消費電力が大きくなります。

0 : 屋内などの明るすぎない場所を使用する場合の
設定です。

USB通信の方法を切り替える

パソコンやプリンターなどの外部機器と接続するときの、USB通信の方法を切り替えることができます。接続する機器に合わせて切り替えてください。

1. **【MENU】**を押す
2. “設定”タブ→“USB”と選び、**【▶】**を押す
3. **【▲】【▼】**で使用する機器に合わせて設定を選び、**【SET】**を押す
 - Mass Storage (USB DIRECT-PRINT):
パソコンやUSB DIRECT-PRINT対応(138ページ)のプリンターを接続する場合、こちらを選びます。パソコンにカメラを外部記憶装置として認識させる方法です。通常、パソコンへの画像の保存の操作時(付属のソフト「Photo Loader with HOT ALBUM」使用時)はこちらを選んでください。
 - PTP (PictBridge):
PictBridge対応(138ページ)のプリンターを接続する場合に選びます。画像データを外部接続機器に簡単に転送するための接続方法です。

【▶】(再生)の動作を設定する

【▶】(再生)を押したときの電源の入りかたを設定します。

1. **【MENU】**を押す
2. “設定”タブ→“**【▶】**パワーオン”と選び、**【▶】**を押す
3. **【▲】【▼】**で設定内容を選び、**【SET】**を押す
パワーオン: **【▶】**(再生)を押すと、電源が入ります。
長押しオン: **【▶】**(再生)を約1秒間押し続けると、電源が入ります。カメラをカバンの中に入れたときなど、不用意に電源が入ることを防ぎます。
切 : **【▶】**(再生)を押しても、電源は入りません。

参考

- お買い上げいただいたときは、“パワーオン”に設定されています。
- テレビに画像を映し出す場合は、“切”以外に設定する必要があります。

内蔵メモリーをフォーマットする

内蔵メモリーをフォーマットすると、内蔵メモリーの内容がすべて消去されます。

重要


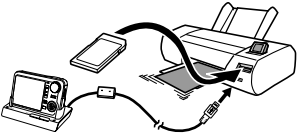
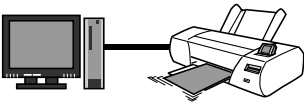
- 内蔵メモリーをフォーマットすると、データを元に戻すことはできません。フォーマット操作を行う際は、本当にフォーマットしてもよいかどうかをよく確かめてから行ってください。
- 次の画像も同時に消去されます。
 - 顔認識でファミリー登録した内容
 - メモリープロテクトされた画像
 - お気に入りフォルダの画像
 - ベストショットモードでカスタム登録した内容
 - 起動画面に設定した画像
- フォーマット操作を行うときは、十分に充電された電池を使用してください。フォーマット中に電源が切れると、正しくフォーマットされず、カメラが正常に動作しなくなる恐れがあります。
- フォーマット中は、絶対に電池カバーを開けないでください。カメラが正常に動作しなくなる恐れがあります。

1. 本機にメモリーカードが入っていないことを確認する
 - メモリーカードが入っている場合は、取り出してください。
2. **【MENU】**を押す
3. “設定”タブ→“フォーマット”と選び、**【▶】**を押す
4. **【▲】****【▼】**で“フォーマット”を選び、**【SET】**を押す
内蔵メモリーがフォーマットされます。
 - フォーマットを実行しないときは、“キャンセル”を選んでください。
 - フォーマットが完了すると、再生モードの場合は“ファイルがありません”と表示されます。

プリント(印刷)する

プリントのしかたあれこれ

撮影した画像は、3通りの方法でプリントできます。

<p>お店で プリントする (138ページ)</p>	<p>○△プリント</p> 	<p>撮影に使ったメモリーカードを、プリントサービスのお店に持参してプリントします。</p> <ul style="list-style-type: none">● プリントしたい画像や枚数、日付の情報を設定しておくことができます。
<p>自宅で プリントする</p>	<p>プリンターでプリントする(138ページ)</p> 	<p>PictBridgeまたはUSB DIRECT-PRINTに対応しているプリンターや、メモリーカードを差し込むスロットが付いているプリンターでプリントします。</p> <ul style="list-style-type: none">● プリントしたい画像や枚数、日付の情報を設定しておくことができます。
	<p>パソコンを使ってプリントする</p> 	<p>■Windows/パソコンの場合 付属のソフト(Photo Loader with HOT ALBUM)をパソコンにインストールした後、プリントします。 →「Windowsパソコンを利用する」(145ページ)</p> <p>■Macintoshの場合 画像をパソコンに取り込んだ後、市販のプリントソフトを使ってプリントします。 →「Macintoshを利用する」(161ページ)</p>

■ プリントについてのご注意

- 印刷品位や用紙の設定についてはプリンターの取扱説明書をご覧ください。
- PictBridgeやUSB DIRECT-PRINT対応プリンターの機種名やプリンターのバージョンアップなどについては、プリンターメーカーにお問い合わせください。
- プリント中は、ケーブルを抜いたり、カメラやUSBクレードルの操作を行わないでください。プリンターがエラーを起すことがあります。

お店でプリントする

プリントしたい画像が記録されているメモリーカードを、プリントサービスを行っているカメラ店などに持参してプリントします。DPOF機能(141ページ)を使って、プリントしたい画像や枚数、日付プリントの設定をあらかじめしておく、お店での手続きが簡単です。

お手持ちのプリンターでプリントする

お手持ちのプリンターが以下のどちらかのタイプの場合、パソコンを使わずにプリントできます。

- ご使用のメモリーカードに対応したメモリーカードスロット付のプリンター
- PictBridgeまたはUSB DIRECT-PRINTに対応しているプリンター

■ メモリーカードスロット付のプリンターでプリントする

メモリーカードをカメラから取り出し、プリンターのスロットに直接セットしてプリントできます。また、プリンターによってはカメラのDPOF機能(141ページ)で設定した内容(画像の指定、枚数、日付)が利用可能です。詳しくは、プリンターに付属の説明書にしたがって操作してください。

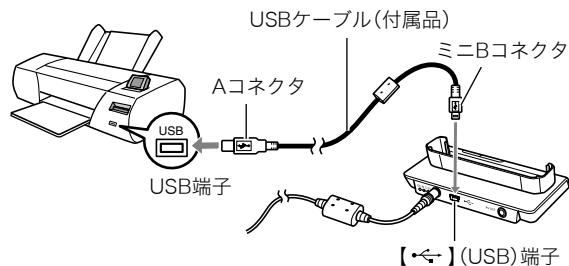
■ PictBridgeまたはUSB DIRECT-PRINT対応のプリンターでプリントする

カメラをプリンターに直接接続し、カメラの液晶モニター上でプリントする画像を選んでプリントできます。

- このカメラは付属のUSBクレードルを介してプリンターと接続しますが、すぐにUSBクレードルとプリンターを接続せず、必ず以下の手順を進めてください。

1. [MENU]を押す

2. “設定”タブ→“USB”と選び、**[▶]**を押す
3. **[▲]****[▼]**で使用するプリンターに合わせて設定を選び、**[SET]**を押す
 Mass Storage(USB DIRECT-PRINT):
 ご使用のプリンターがUSB DIRECT-PRINT対応の場合、こちらを選びます。
 PTP(PictBridge):
 ご使用のプリンターがPictBridge対応の場合、こちらを選びます。
4. 付属のUSBケーブルでUSBクレードルとプリンターのUSB端子を接続する



- USBクレードルにはACアダプターも接続しておいてください。
- ACアダプターを使用しないときは、十分に充電された電池をセットしてください。

- 付属のAVケーブルがUSBクレードルに接続されていると、カメラの液晶モニターには何も表示されませんので、AVケーブルは必ずUSBクレードルからはずしてください。
5. カメラの電源を切り、カメラをUSBクレードルにセットする
 6. プリンターの電源を入れる
 7. プリンターに印刷用紙をセットする
 8. USBクレードルの**[USB]**を押す
 カメラにプリントメニュー画面が表示されます。



9. **[▲]****[▼]**で“用紙サイズ”を選び、**[▶]**を押す

10. **【▲】【▼】**でプリントする用紙サイズを選び、**【SET】**を押す

- 用紙サイズは次の通りです。
“L判”、“2L判”、“はがき”、“A4”、“Letter”、“プリンタで設定”
- “プリンタで設定”を選ぶと、プリンター側で設定した用紙サイズでプリントされます。
- 用紙について設定できる内容は、接続したプリンターによって異なります。詳しくはプリンターの取扱説明書をご覧ください。

11. **【▲】【▼】**でプリントの方法を指定する

1枚プリント : 1枚ずつプリントする場合に選び、**【SET】**を押します。続けて**【◀】【▶】**でプリントしたい画像を選びます。

DPOFプリント : 複数の画像やすべての画像をプリントする場合に選び、**【SET】**を押します。DPOF機能で設定した画像がプリントされます。設定方法については141ページをご覧ください。

- 日付設定の入/切を切り替えるには、ズームレバーをスライドさせます。“あり”を表示させると、日付がプリントされます。



12. **【▲】【▼】**で“プリント”を選び、**【SET】**を押す

プリントが始まり、液晶モニターに“処理中です しばらくお待ちください”と表示されます。しばらくすると表示が消えますが、プリントは終了していません。カメラのいずれかのボタンを押すと、プリントの状況が再び表示されます。プリントが終了すると、プリントメニュー画面に戻ります。

- “1枚プリント”で別の画像をプリントする場合は、手順11から同様の操作を行ってください。

13. プリントが終了したらUSBクレードルの**【USB】**を押す

カメラの電源が切れます。

プリントする画像や枚数を指定しておく (DPOF)

DPOF (Digital Print Order Format) とは、撮影した画像の中からプリントしたい画像や枚数などを設定し、その情報をメモリーカードなどの記録媒体に記録するための規格です。DPOF対応の家庭用プリンターやプリントサービス店でプリントすることができます。本機のDPOF機能を使えば、画像のファイル名などを意識することなく、液晶モニターで確認しながら設定ができます。

設定可能な内容は、画像／枚数／日付です。



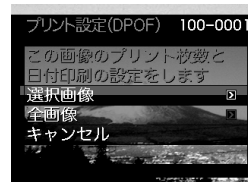
重要

- プリンターによっては、日付の設定が無効になったり、DPOFに対応していない場合があります。プリンターの取扱説明書にしたがって操作してください。
- お店でプリントをする場合、DPOF機能を利用できない場合や他の方法でプリントを受け付けている場合があります。その際は、店頭のサービスにしたがってプリントをご依頼ください。

■ 画像ごとにプリント枚数を指定する

1. 再生モードにして【MENU】を押す

2. “再生機能” タブ→“プリント設定 (DPOF)” と選び、【▶】を押す



3. 【▲】【▼】で“選択画像”を選び、【▶】を押す

4. 【◀】【▶】でプリントしたい画像を表示させる

5. 【▲】【▼】でプリントする枚数を決める

- プリント設定できる枚数は99枚までです。プリントしたくない場合は“00”にしてください。

6. 日付をプリントしたい場合は、ズームレバーをスライドさせて日付印刷を“あり”にする

- 日付が不要なときは、ズームレバーをスライドさせて日付印刷を“なし”にします。
- 他の画像をプリントする場合は、手順4～6を繰り返してください。

7. 【SET】を押す

■ すべての画像に同じプリント指定をする

1. 再生モードにして【MENU】を押す
2. “再生機能” タブ→“プリント設定 (DPOF)” と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で“全画像”を選び、【▶】を押す
4. 【▲】【▼】でプリントする枚数を決める
 - プリント設定できる枚数は99枚までです。プリントしたくない場合は“00”にしてください。
5. 日付をプリントしたい場合は、ズームレバーをスライドさせて日付印刷を“あり”にする
 - 日付が不要なときは、ズームレバーをスライドさせて日付印刷を“なし”にします。
6. 【SET】を押す

次回のプリント時に気をつけていただきたいこと

プリントが完了してもDPOFの設定は自動的に解除されません。次回プリント時にも前回設定した画像がある場合、同じ画像がプリントされてしまいます。以前プリントした画像をプリントしない場合は、一度「すべての画像に同じプリント指定をする」(142ページ)の操作で、全画像プリントの枚数設定を“00”にしてから、あらためてプリント枚数を設定してください。

お店でプリントするときに気をつけていただきたいこと

お店にプリントを注文する場合は、注文時に「DPOFでプリントする画像、枚数、日付を設定済みです」とお伝えください。お伝えいただかないと、設定された内容(画像、枚数、日付)が反映されず、すべての画像がプリントされたり、日付がプリントされないことがあります。

日付プリントについて

以下の方法で、画像に撮影時の日付を入れてプリントすることができます。

- **本機のDPOF機能で指定する(141ページ)**
 - 本機のタイムスタンプ機能により、日付や時刻を写し込んだ画像にDPOFで日付印刷を設定すると、日付が2重に印刷されてしまいますので、DPOFによる日付印刷は設定しないでください。
 - プリンターによっては、日付の設定が無効になったり、DPOF機能に対応していない場合があります。プリンターの取扱説明書にしたがって操作してください。
 - プリントをするお店によってはDPOF機能に対応していない場合がありますので、あらかじめご確認ください。
- **本機のタイムスタンプ機能により日付や時刻を画像に直接写し込む(93ページ)。**
- **付属のソフト「Photo Loader with HOT ALBUM」(153ページ)で日付を入れてプリントする(Windowsパソコンの場合)**
- **お店にプリントを注文するときに、日付プリントするよう依頼する**
 - プリントするお店によっては、日付をプリントできない場合がありますので、あらかじめご確認ください。

対応規格について

本製品は下記の規格に対応しています。

■ PictBridge

カメラ映像機器工業会(CIPA)制定の規格です。



■ USB DIRECT-PRINT

セイコーエプソン株式会社提唱の規格です。



■ PRINT Image Matching III

PRINT Image Matching III 対応プリンターでの出力および対応ソフトウェアでの画像処理において、撮影時の状況や撮影者の意図を忠実に反映させることが可能です。

PRINT Image Matching及びPRINT Image Matching IIIに関する著作権はセイコーエプソン株式会社が所有しています。



■ Exif Print

Exif Print(Exif2.2)は、対応プリンターをお使いの場合に画像ファイルに記録された撮影情報を印刷出力に反映させることを可能にします。Exif Print対応プリンターの機種名やプリンターのバージョンアップ等については、各プリンターメーカーにお問い合わせください。



パソコンを利用する

パソコンを使ってできること

カメラを、付属のUSBクレードルを介してパソコンに接続して、次のことができます。

画像を見る/ 保存する*	カメラの画像をパソコンで見たり、パソコンに保存することができます。
画像を管理/ 編集/印刷す る	パソコンに保存した画像に対して、管理や編集、印刷することができます。 ● 以降の説明をお読みになり、必要なソフトをパソコンにインストールしてください。
画像を転送す る	Windowsパソコンの場合のみ、パソコンに保存されている画像をカメラに転送できます。 ● カメラで撮影した画像以外の画像も転送できます。また、パソコンに表示されている画面の一部(Webページの情報や地図など)をキャプチャー(切り抜き)して転送できます。

※カメラとパソコンを接続せず、カメラから取り出したメモリーカードを直接パソコンにセットして、画像を見たり保存したりする方法もあります(165ページ)。

カメラとパソコン、付属のソフトを使ってできることや操作のしかたは、Windowsパソコンの場合とMacintoshの場合で異なります。

- Windowsパソコンの場合→「Windowsパソコンを利用する」(145ページ)
- Macintoshの場合→「Macintoshを利用する」(161ページ)

重要

- このカメラは、USB2.0 Hi-Speedに対応しています。USB1.1対応のパソコンでもご使用できますが、USB2.0 Hi-Speedに対応したパソコンに接続することにより、より高速な転送が行えます。ただし、機器の構成やUSBハブのご使用等により、転送速度が遅くなったり、正常に動作しない場合があります。



Windowsパソコンを利用する

OSのバージョンおよび使用目的に応じて、必要なソフトをインストールしてください。

使用目的	OSのバージョン	インストールするソフト	参照ページ
<ul style="list-style-type: none"> パソコンで画像を見る パソコンに画像を保存 	Vista/ XP/ 2000/Me	— (USBドライバは不要です。)	—
	98SE/98	USB driver Type B <ul style="list-style-type: none"> USBドライバはカシオデジタルカメラオフィシャルWebサイト (http://dc.casio.jp/) からダウンロードしてください。 	148
パソコンに自動で画像を保存/画像の管理	Vista/ XP/2000	Photo Loader with HOT ALBUM 3.1 DirectX 9.0c(パソコンにDirectX 9.0以上がないとき)	153
動画の再生	XP/2000	QuickTime 7	154

使用目的	OSのバージョン	インストールするソフト	参照ページ
動画の編集	Vista/ XP/2000	VideoStudioおまかせモード3.2 SE VCD (英語版は、Movie Wizard 3.2 SE VCD) <ul style="list-style-type: none"> ほかにDirectX、Microsoft Windows Media Player、QuickTime 7、Flash Playerが必要です。 	156
	XP/2000	VideoStudio10 Plus for CASIO (体験版) (英語版は、VideoStudio10 Plus for CASIO(Trial Version.)) <ul style="list-style-type: none"> 上記のソフトは体験版ですので、ご使用はインストール後30日間限定です。 ほかにDirectX、Microsoft Windows Media Player、QuickTime 7、Flash Playerが必要です。 	157
	Me/ 98SE/98	— <ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて、市販のソフトをご利用ください。 	—

使用目的	OSのバージョン	インストールするソフト	参照ページ
YouTubeサイトへの動画のアップロード	Vista/ XP(SP2)/ 2000(SP4)	YouTube Uploader for CASIO	155
カメラへの画像の転送	Vista/ XP/ 2000/ Me/ 98SE/98	Photo Transport 1.0	157
取扱説明書を表示	Vista/ XP/ 2000	Adobe Reader 8 (すでにインストールされているときは、不要です。)	160
	Me/ 98SE/98	— • パソコンにAdobe ReaderまたはAdobe Acrobat Readerがインストールされていない場合は、アドビシステムズ社のホームページからOSにあったバージョンをインストールしてください。	—

■ 同梱ソフト使用時の動作環境について

使用するソフトによってパソコンに必要な動作環境が異なりますので、必ず確認してください。また、各ソフトの動作環境はアプリケーションを動作させるために必要な最低限の性能です。取り扱う画像サイズや枚数によって、これ以上の性能を必要とします。

Photo Loader with HOT ALBUM 3.1

HD : 2GB以上

その他: Internet Explorer 5.5以上のインストール
DirectX 9.0以上
Windows Media Player 9以上
QuickTime 7以上

DirectX 9.0c

HD: インストールに65MB(HDは18MB)

YouTube Uploader for CASIO

- OSが正常に動作すること
- YouTubeサイトで動画が再生できること
- YouTubeサイトに動画がアップロードできること

Photo Transport 1.0

メモリー: 64MB以上

HD : 約2MB以上

Adobe Reader 8

CPU : Pentium IIIクラス
メモリー: 128MB以上
HD : 180MB以上
その他 : Internet Explorer 6.0以上のインストール

QuickTime 7

CPU : Pentium以上
メモリー: 128MB以上
OS : Windows 2000 Service Pack 4/XP

VideoStudioおまかせモード3.2 SE VCD (英語版: Movie Wizard 3.2 SE VCD)

CPU : Intel Pentium 4, M, D, Extreme Edition, または
AMD Athlon 64 以上
メモリー: 256MBのRAM(512MB以上推奨)
HD : 250MBの空き領域(プログラムインストール用)
ビデオキャプチャおよび編集用に4GB以上のハード
ディスクスペース
その他 : 画面の解像度1024×768以上
他にDirectX、Microsoft Windows Media Player、
QuickTime 7、Flash Playerが必要

VideoStudio10 Plus for CASIO(体験版) (英語版:VideoStudio10 Plus for CASIO(Trial Version.))

※30日間限定版

CPU : Intel Pentium 4, M, D, Extreme Edition, または
AMD Athlon 64 以上
メモリー: 512MBのRAM(1GB以上推奨)
HD : 1GBの空き領域(プログラムインストール用)
ビデオキャプチャおよび編集用に4GB以上のハード
ディスクスペース
その他 : 画面の解像度1024×768以上
他にDirectX、Microsoft Windows Media Player、
QuickTime 7、Flash Playerが必要

重要

- 各ソフトの詳しい動作環境については、付属のCD-ROM
(カシオデジタルカメラアプリケーションソフトウェア)内
の「お読みください」ファイルを参照して、ご確認ください。

■ 英語版のソフトを利用するときは

英語版のソフトを利用したいときは、CD-ROMから英語のソフトをインストールしてください。ただし、日本語版と英語版を2重インストールしないでください。

- 英語版のソフトをインストールするときは、CD-ROMをパソコンにセットして、日本語のMENU画面が表示されたら、“Language”の“English”をクリックします。

■ 同梱ソフトをWindows Vistaで使用する場合がございます

- Photo Transportは、64bitのWindows Vistaには対応していません。
- Photo Transportは、管理者(Administrator)権限以外は使用できません。
- 自作パソコンやデュアル環境でのサポートは行っていません。
- お客様のパソコン環境によっては、対応できない場合があります。
- 以前購入されたカメラに同梱のPhoto Loaderで保存している画像データは、Photo Loader with HOT ALBUMに移行することで引き続きお使いいただけます。

画像をパソコンで見るとパソコンに保存する

カメラをパソコンに接続して、画像(静止画や動画などのファイル)をパソコンで見たり、パソコンに保存することができます。

- Windows Vista/XP/2000/Meの場合は、USBドライバをインストールする必要はありません。パソコンと接続するだけで利用できます。
- Windows 98SE/98の場合は、USBドライバをインストールする必要があります(145ページ)。USBドライバは、カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイト(<http://dc.casio.jp/>)からダウンロードしてください。

Windows 98SE/98の場合は、USBドライバをインストールする前にカメラとパソコンを接続しない!

パソコンがカメラを認識なくなります。

Windows 98SE/98をお使いの場合、必ず最初にUSBドライバをインストールしてください。

インストールが終わるまで、カメラとパソコンを接続しないでください。

操作の流れ

1. カメラとパソコンを接続する(148ページ)



2. 画像ファイルを見る/保存する(151ページ)

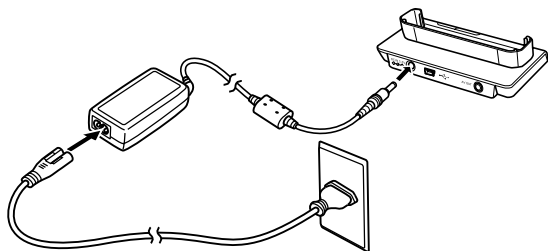
■ カメラとパソコンを接続する



重要

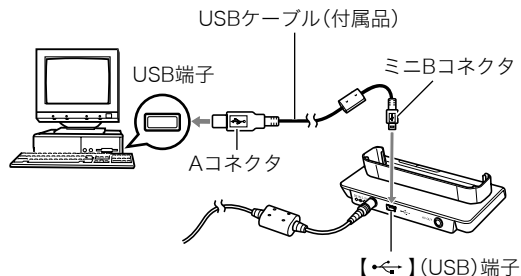
- ACアダプターを使用しないでパソコンとファイルのやりとりを行った場合、電池が消耗していると、操作中にカメラの電源が切れる可能性があります。専用ACアダプターを使用することをおすすめします。

1. 付属のACアダプターをUSBクレードルの【DC IN 5.3V】と家庭用コンセントに接続する



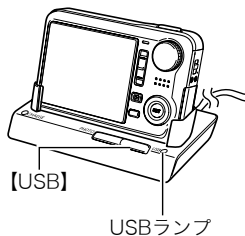
- ACアダプターを使用しないときは、十分に充電された電池を使用してください。

2. 付属のUSBケーブルで、USBクレードルとパソコンのUSB端子を接続する



- USB端子の形状とケーブルの接続端子の形状を合わせて接続してください。
 - USBコネクタは奥まで確実に差し込んでください。正しく接続しないと、正常に動作しません。
- 3. カメラのレンズカバーを開けて電源を入れ、【MENU】を押す**
- カメラはまだUSBクレードルにセットしないでください。
- 4. “設定”タブ→“USB”と選び、【▶】を押す**
- 5. 【▲】【▼】で“Mass Storage”を選び、【SET】を押す**
- 6. カメラのレンズカバーを閉じて電源を切ってから、カメラをUSBクレードルの上にセットする**
- カメラの電源を入れたまま、USBクレードルの上にセットしないでください。
 - 内蔵メモリーの画像をパソコンに保存する場合は、カメラからメモリーカードを取り出した状態でUSBクレードルにセットしてください。

7. USBクレードルの【USB】を 押す



カメラとパソコンを接続すると

USBモードになり、USBクレードルのUSBランプが緑色に点灯します。パソコンは、カメラ内のメモリーカードまたは内蔵メモリーを「リムーバブルディスク」として認識します。

カメラのUSB設定を変更しない限り、次回からは手順3から5の操作は不要です。

- パソコンのOSの環境によっては、「リムーバブルディスク」ガイダンスが表示されることがあります。この場合は、ガイダンスを閉じてください。

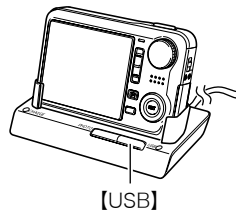
重要

- 「カメラをUSBクレードルからはずす」(153ページ)の操作を行わずにケーブルを抜いたり、カメラをUSBクレードルからはずさないでください。画像データが破壊される恐れがあります。

■ 2回目以降のパソコンとの接続

次にカメラとパソコンを接続するときは、以下のようにします(メニューからの設定が不要になります)。

1. カメラのレンズカバーを閉じて電源を切ってから、カメラをUSBクレードルの上にセットする
2. USBクレードルの【USB】を押す
 - USBモードになり、USBクレードルのUSBランプが緑色に点灯します。



■ カメラの画像をパソコンで見る

カメラとパソコンを接続した状態で、パソコンでカメラの画像を見ることができます。

1. Windows XPの場合：
“スタート”→“マイコン
ピュータ”の順でクリック
する

Windows Vistaの場合：
“スタート”→“コンピュ
ータ”の順でクリックする
Windows 2000/Me/
98SE/98の場合：

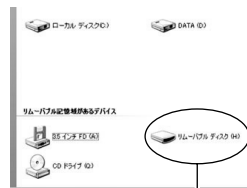
“マイコンピュータ”をダブル
クリックする



Windows XPの場合

2. “リムーバブルディスク”を
ダブルクリックする

- メモリーカードまたは内
蔵メモリーは、「リムーバ
ブルディスク」として認識
されています。



リムーバブルディスク

3. “DCIM”フォルダをダブル
クリックする



4. 見たい画像が入ったフォル
ダをダブルクリックする



5. 見たい画像ファイルをダブル
クリックする

画像が表示されます。

- ファイル名については「メ
モリー内のフォルダ構造」
(166ページ)を参照くだ
さい。



参考

- カメラ内で回転表示させた画像をパソコンで見た場合は、
回転させる前の画像が表示されます。

■ 画像をパソコンに保存する

パソコンで画像を加工したりアルバムを作るには、画像をパソコン内に保存する必要があります。保存は、カメラをUSBケーブルを介してパソコンに接続した状態で行います。

1. Windows XPの場合:

“スタート”→“マイコン
ピュータ”の順でクリック
する

Windows Vistaの場合:
“スタート”→“コンピュ
ータ”の順でクリックする

Windows 2000/Me/
98SE/98の場合:

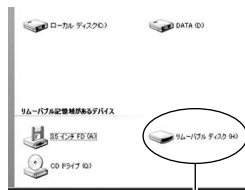
“マイコンピュータ”をダブル
クリックする



Windows XPの場合

2. “リムーバブルディスク”を ダブルクリックする

- メモリーカードまたは内蔵メモリーは、「リムーバブルディスク」として認識されています。



リムーバブルディスク

3. “DCIM”フォルダを右ボタ ンでクリックする



4. メニューの“コピー”をクリックする

5. Windows XPの場合:

“スタート”→“マイドキュメント”の順でクリックする
Windows Vistaの場合:

“スタート”→“ドキュメント”の順でクリックする

Windows 2000/Me/98SE/98の場合:

“マイドキュメント”をダブルクリックして開く

- すでに“DCIM”フォルダが保存されている場合は、上書きされてしまいます。すでに保存されている“DCIM”フォルダの名前を変えるなどしてからコピーしてください。

6. “マイドキュメント”メニューで、“編集”→“貼り付け”の 順でクリックする

“DCIM”フォルダ(画像ファイルが保存されているフォルダ)が“マイドキュメント”フォルダにコピーされ、画像も一緒にパソコンに保存されます。

重要

- 内蔵メモリーやメモリーカード内の画像に対して、パソコンで修正・削除・移動・名前の変更などを行わないでください。画像管理データと整合性がとれず、カメラで再生できなくなったり、撮影枚数が極端に変わったりします。修正・削除・移動・名前の変更などはパソコンに保存した画像で行ってください。
- 画像を見たり保存している途中でケーブルを抜いたり、カメラやクレードルの操作を行わないでください。データが破壊される恐れがあります。

■ カメラをUSBクレードルからはずす

Windows Vista/XP/98SE/98の場合

USBクレードルの【USB】を押し、USBランプが消灯したのを確認してから、カメラをUSBクレードルから取りはずします。

Windows 2000/Meの場合

パソコン画面のタスクトレイのカードサービスを左クリックし、カメラに割り当てられているドライブ番号の停止を選択します。その後、USBクレードルの【USB】を押し、USBランプが消灯したのを確認してから、カメラをUSBクレードルから取りはずします。

パソコンに自動で画像を保存する/画像を管理する

パソコンに保存した画像を管理するには、付属のCD-ROMに収録されているPhoto Loader with HOT ALBUMをパソコンにインストールします。Photo Loader with HOT ALBUMを使用すれば、パソコンに画像を自動で取り込んで、撮影年月日で整理ができ、カレンダー形式で表示することができます。

■ Photo Loader with HOT ALBUMをインストールする

1. パソコンを起動し、付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブに入れる
 - パソコンの設定によっては、自動的にメニュー画面が表示されない場合があります。その場合は、CD-ROMが割り当てられているドライブを開き、AutoMenu.exeをダブルクリックしてください。
2. “Photo Loader with HOT ALBUM 3.1”をクリックして選び、“お読みください”をクリックして読む
 - インストールするために必要な条件や動作環境が書かれています。
3. Photo Loader with HOT ALBUMの“インストール”をクリックする
4. 画面の指示にしたがって操作する
Photo Loader with HOT ALBUMがインストールされます。

DirectXの確認

Photo Loader with HOT ALBUMで取り込んだ画像を管理するには、パソコンにDirectX 9.0以上がインストールされている必要があります。パソコンの「DirectX 診断ツール」を見てDirectXのバージョンを確認してください。

1. パソコンのメニューで“スタート”→“すべてのプログラム”→“アクセサリ”→“システムツール”の順でたどり、“システム情報”を開く
2. メニューバーから“ツール”→“DirectX 診断ツール”の順で開く
3. “システム”タブをクリックし、“DirectX バージョン”が9.0以上であることを確認する
4. “終了”をクリックして「DirectX 診断ツール」を終了する
 - DirectX 9.0以上がインストールされている場合は、付属のCD-ROMに収録されている「DirectX 9.0c」をインストールする必要はありません。
 - DirectX 9.0以上がインストールされていない場合は、付属のCD-ROMに収録されている「DirectX 9.0c」をインストールしてください。

動画を再生する

動画はQuickTime 7以降をインストールすると再生することができます。パソコンに動画をコピーしてから、画像ファイルをダブルクリックして再生してください。



1. パソコンを起動し、付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブに入れる
 - パソコンの設定によっては、自動的にメニュー画面が表示されない場合があります。その場合は、CD-ROMが割り当てられているドライブを開き、AutoMenu.exeをダブルクリックしてください。
2. “QuickTime 7”をクリックして選び、“お読みください”をクリックして読む
 - インストールするために必要な条件や動作環境が書かれています。
3. “QuickTime 7”の“インストール”をクリックする
4. 画面の指示にしたがって操作する
QuickTime 7がインストールされます。

■ 動画再生時の動作環境

カメラで撮影した動画をパソコンで再生する場合、以下の動作環境を推奨します。

OS	: XP/2000
CPU	: Pentium M, 1GHz 以上 Pentium 4, 2GHz 以上

必要なソフトウェア: QuickTime 7, DirectX 9.0c

重要

- 上記の動作環境は推奨の環境であり、動作を保証するものではありません。
- 上記動作環境のパソコンでも、設定状態やインストールされているソフトウェアによっては、正しく動作しない場合があります。

YouTubeに動画をアップロードする

ベストショットモードの“YouTube”のシーンで撮影した動画ファイルを簡単にYouTubeのWebサイトへアップロードするには、付属のCD-ROMに収録されているYouTube Uploader for CASIOをパソコンにインストールします。

YouTubeとは

YouTubeとは、YouTube, LLC社が運営する動画サイトです。YouTubeでは、動画の閲覧や動画をアップロードすることができます。ただし、動画をアップロードするには、あらかじめユーザー登録が必要となります。

■ YouTube Uploader for CASIOをインストールする

1. パソコンを起動し、付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブに入れる
 - パソコンの設定によっては、自動的にメニュー画面が表示されない場合があります。その場合は、CD-ROMが割り当てられているドライブを開き、AutoMenu.exeをダブルクリックしてください。
2. “YouTube Uploader for CASIO”をクリックして選び、“お読みください”をクリックして読む
 - インストールするために必要な条件や動作環境が書かれています。
3. YouTube Uploader for CASIOの“インストール”をクリックする
4. 画面の指示にしたがって操作する
YouTube Uploader for CASIOがインストールされます。

■ 動画ファイルをYouTubeにアップロードする

★ 重要

- YouTube Uploader for CASIOを使用する前にYouTubeのWebサイト (<http://www.youtube.com/>) でユーザー会員登録をしてください。
 - 著作権(著作権隣接権を含みます)により保護されているビデオは、ご自身が権利を有しているか、関係する権利者から許可を得ている場合を除いてアップロードしないでください。
1. ベストショットモードの“YouTube”のシーンで動画を撮影する
 2. あらかじめパソコンをネットワークに接続しておく
 3. カメラをパソコンに接続する
 - パソコンとの接続方法は、148ページをご覧ください。
 4. USBクレードルの【USB】を押す
 - YouTube Uploader for CASIOが自動的に起動します。
 - 初めて起動したときは、ユーザーID、パスワード、ネットワークの設定画面が表示されますので、YouTubeのユーザーID、パスワード、お使いのネットワークの環境を設定し、[OK]ボタンをクリックしてください。

5. 画面左側に動画ファイルをアップロードするのに必要なタイトル、カテゴリ等が表示されるので、動画ファイルをアップロードする際に必要な情報を入力する

6. 画面右側に動画ファイルのリストが表示されるので、アップロードしたい動画ファイルのチェックボックスにチェックを入れる

7. すべての準備が整ったら、[アップロード]ボタンをクリックする

動画ファイルがWebサイトに転送されます。

- ファイル転送が終わったら、[終了]ボタンをクリックし、アプリケーションを終了してください。

★ 重要

- YouTubeのWebサイトにアップロードできるファイルのサイズは、1つのファイルにつき最大100MBです。

動画を編集する

動画を編集するには、付属のCD-ROMに収録されているVideoStudioおまかせモード3.2 SE VCD(英語版:Movie Wizard 3.2 SE VCD) をパソコンにインストールします。

参考

- 付属のCD-ROMに収録されているVideoStudioおまかせモード3.2 SE VCDはVideo-CDの作成はできませんが、DVDの作成はできません。製品版にアップグレード(有料)することでDVDの作成ができるようになります。VideoStudioおまかせモード3.2 SE VCDの機能やバージョンアップについては「お読みください」をご覧ください。

■ VideoStudioおまかせモード3.2 SE VCDをインストールする

1. パソコンを起動し、付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブに入れる
 - パソコンの設定によっては、自動的にメニュー画面が表示されない場合があります。その場合は、CD-ROMが割り当てられているドライブを開き、AutoMenu.exeをダブルクリックしてください。
2. “VideoStudioおまかせモード3.2 SE VCD”をクリックして選び、“お読みください”をクリックして読む
 - インストールするために必要な条件や動作環境が書かれています。
3. “VideoStudioおまかせモード3.2 SE VCD”の“インストール”をクリックする

4. 画面の指示にしたがって操作する

- “VideoStudioおまかせモード3.2 SE VCD”がインストールされます。

より高度な編集をおこなう場合は、体験版として下記のアプリケーションを同じようにインストールしてご利用ください。製品版のVideoStudio10との違いは、おまかせモードの機能削除と30日の期間限定版となっています。

VideoStudio10 Plus for CASIO(体験版)
(英語版:VideoStudio10 Plus for CASIO(Trial Version.))
※30日期間限定版

カメラに画像を転送する


パソコンに取り込んだ画像を、もう一度カメラへ戻すには、付属のCD-ROMに収録されているPhoto Transportをパソコンにインストールします。

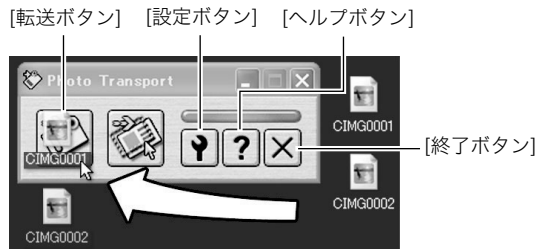
■ Photo Transportをインストールする

1. パソコンを起動し、付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブに入れる
 - パソコンの設定によっては、自動的にメニュー画面が表示されない場合があります。その場合は、CD-ROMが割り当てられているドライブを開き、AutoMenu.exeをダブルクリックしてください。

2. “Photo Transport”をクリックして選び、“お読みください”をクリックして読む
 - インストールするために必要な条件や動作環境が書かれています。
3. “Photo Transport”の“インストール”をクリックする
4. 画面の指示にしたがって操作する
Photo Transportがインストールされます。

■ 画像ファイルをカメラに転送する

1. あらかじめカメラをパソコンに接続しておく
 - パソコンとの接続方法は、148ページをご覧ください。
2. パソコンのメニューで“スタート”→“すべてのプログラム”→“Casio”→“Photo Transport”の順でクリックして、Photo Transportを開く
Photo Transportが起動します。
3. Photo Transportの[転送ボタン]に転送したい画像ファイルをドラッグアンドドロップする
ドラッグアンドドロップは次のようにします。転送したい画像ファイルに“”（矢印）を合わせ、マウスの左ボタンを押したままにします。そのままPhoto Transportの[転送ボタン]に画像データを引きずり、マウスの左ボタンを離します。



4. 画面の指示にしたがって操作する
画像ファイルがカメラに転送されます。
 - 画面の指示や転送される画像の詳細はPhoto Transportの設定によって異なります。詳しくは[設定ボタン]や[ヘルプボタン]を押して設定内容を確認してください。

★ 重要

- 画像によっては一部転送できない場合があります。
- 動画は転送できません。
- 転送できる画像は下記の拡張子の画像データです。
.jpg、.jpeg、.jpe、.bmp(.bmpはJPEG画像に変換されて転送されます。)

■ パソコンの画面をカメラに転送する

パソコンに表示されている画面を取り込んで、画像ファイルとしてカメラへ送ることができます。

1. あらかじめカメラをパソコンに接続しておく

- パソコンとの接続方法は、148ページをご覧ください。

2. パソコンのメニューで“スタート”→“すべてのプログラム”→“Casio”→“Photo Transport”の順でクリックして、Photo Transportを開く

Photo Transportが起動します。


3. 転送したい画面を表示する

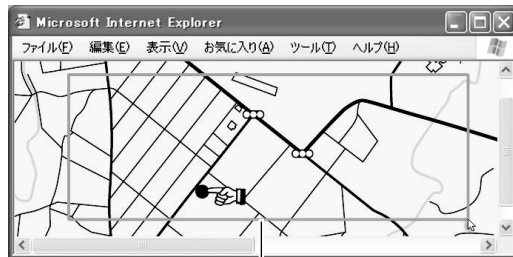
4. Photo Transportの[キャプチャーボタン]をクリックする



[キャプチャーボタン]

5. 転送したい範囲を囲む

転送したい部分の左上に“” (矢印) を移動してマウスの左ボタンを押したままにし、そのままマウスを右下へずらすことで転送したい範囲を囲みます。



転送される範囲

6. 画面の指示にしたがって操作する

囲んだ範囲の画像がカメラに転送されます。

- 画面の指示や転送される画像の詳細はPhoto Transportの設定によって異なります。詳しくは[設定ボタン]や[ヘルプボタン]を押して設定内容を確認してください。

重要

- キャプチャーした画像はJPEG画像に変換されて転送されます。

■ 設定/ヘルプについて

設定内容の変更は[設定ボタン]をクリックして変更します。設定内容、操作方法やトラブルシューティングについては、Photo Transportの[ヘルプボタン]をクリックしてヘルプをご覧ください。

取扱説明書(PDFファイル)を読む

取扱説明書をお読みになるには、パソコンにAdobe ReaderまたはAdobe Acrobat Readerがインストールされている必要があります。インストールされていない場合は、Adobe Readerをインストールしてください。

ユーザー登録をする

パソコンからインターネットを通してのみ、ユーザー登録をすることができます。ユーザー登録をするには、パソコンがインターネットに接続されていることが必要です。「カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイト」へのユーザー登録となります。ユーザー登録で登録いただいた個人情報のお取り扱いに関しては、Webサイト上の「ご利用になる前に」に記載されていますので、ご確認ください。ユーザー登録はデジタルカメラ本体や付属ソフトのバージョンアップのご連絡その他情報発信を目的としています。付属ソフトウェアについては、ユーザー登録をしなくてもインストールや使用は可能です。

1. パソコンを起動し、付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブに入れる

- パソコンの設定によっては、自動的にメニュー画面が表示されない場合があります。その場合は、CD-ROMが割当てられているドライブを開き、AutoMenu.exeをダブルクリックしてください。

2. “オンラインユーザ登録”をクリックする

Webブラウザソフトが起動し、ユーザー登録が可能になります。

3. 画面の指示にしたがってユーザー登録を行う

4. ユーザー登録が終了したら、インターネットの接続を終了する

- 下記のアドレスからもユーザー登録ができます。
<http://www.casio.jp/reg/dc/>

CD-ROMのメニューを終了する

CD-ROMのメニューを終了するには、“終了”をクリックします。

Macintoshを利用する

Macintosh OSのバージョンおよび使用目的に応じて、必要なソフトをインストールしてください。

使用目的	OSのバージョン	インストールするソフト	参照ページ
• パソコンで画像を見る • パソコンに画像を保存	OS 9/ OS X	• USBドライバは不要です。	161
パソコンに自動で画像を保存／画像の管理	OS 9	• 市販のソフトをご利用ください。	164
	OS X	• OSにバンドルされているiPhotoが利用できます。	—
動画を再生	OS 9	• 動画ファイルは再生できません。	164
	OS X	• OS X v10.3.9以降で、さらにQuickTime 7以降がインストールされていれば再生できます。	

画像をパソコンで見る／パソコンに保存する

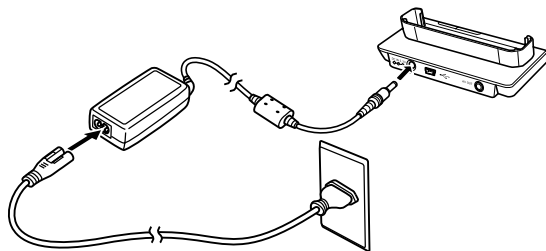
USBクレードルを介してカメラをパソコンに接続し、画像(静止画や動画などのファイル)をパソコンで見たり、パソコンに保存することができます。

重要

- Mac OS 8.6以前、またはMac OS Xの10.0ではご使用できません。Mac OS 9、X(10.1、10.2、10.3、10.4)のみで使用できます(OS標準のUSBドライバを使用)。

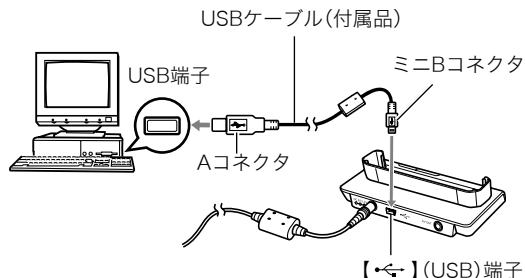
■ カメラとパソコンを接続する

1. 付属のACアダプターをUSBクレードルの【DC IN 5.3V】と家庭用コンセントに接続する



- ACアダプターを使用しないときは、十分に充電された電池を使用してください。

2. 付属のUSBケーブルで、USBクレードルとパソコンのUSB端子を接続する



- USB端子の形状とケーブルの接続端子の形状を合わせて接続してください。
- USBコネクタは奥まで確実に差し込んでください。正しく接続しないと、正常に動作しません。

3. カメラのレンズカバーを開けて電源を入れ、【MENU】を押す

- カメラは、まだUSBクレードルにセットしないでください。

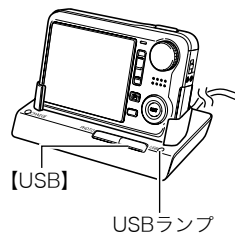
4. “設定”タブ→“USB”と選び、【▶】を押す

5. 【▲】【▼】で“Mass Storage”を選び、【SET】を押す

6. カメラのレンズカバーを閉じて電源を切り、カメラをUSBクレードルの上にセットする

- カメラの電源を入れたまま、USBクレードルの上にセットしないでください。
- 内蔵メモリの画像をパソコンに保存する場合は、カメラからメモリーカードを取り出した状態でUSBクレードルにセットしてください。

7. USBクレードルの【USB】を押す



カメラとパソコンを接続すると

USBモードになり、USBクレードルのUSBランプが緑色に点灯します。パソコンは、カメラ内のメモリーカードまたは内蔵メモリーを「ドライブ」として認識します。Mac OSのバージョンにより、表示されるアイコンが異なる場合があります。カメラのUSB設定を変更しない限り、次回からは手順3から5の操作は不要です。



重要

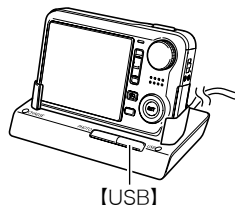
- 「カメラをUSBクレードルからはずす」(164ページ)の操作を行わずにケーブルを抜いたり、カメラをクレードルからはずさないでください。画像のデータが破壊される恐れがあります。

■ 2回目以降のパソコンとの接続

次にカメラとパソコンを接続するときは、以下のようにします(メニューからの設定が不要になります)。

1. カメラのレンズカバーを閉じて電源を切ってから、カメラをUSBクレードルの上にセットする
2. USBクレードルの【USB】を
押す

USBモードになり、USBクレードルのUSBランプが緑色に点灯します。



■ カメラの画像をパソコンで見る

カメラとパソコンを接続した状態で、パソコンでカメラの画像を見ることができます。

1. 表示されたドライブをダブルクリックする
2. 「DCIM」フォルダをダブルクリックする
3. 見たい画像の入ったフォルダをダブルクリックする
4. 見たい画像ファイルをダブルクリックする
画像が表示されます。

重要

- パソコンのモニターに同一の画像を表示したまま放置しないでください。残像現象(画面焼け)の原因になります。

参考

- カメラ内で回転表示させた画像をパソコンで見た場合は、回転させる前の画像が表示されます。

■ 画像をパソコンに保存する

パソコンで画像を加工したりアルバムを作るには、画像をパソコン内に保存する必要があります。保存は、カメラをUSBクレードルを介してパソコンに接続した状態で行います。

1. 表示されたドライブをダブルクリックする
2. 「DCIM」フォルダを保存したいフォルダにドラッグアンドドロップする

「DCIM」フォルダがMacintosh内のフォルダにコピーされます。

- ドラッグアンドドロップとは、マウスのポインタ(矢印)が画像ファイルのアイコン上に重なった状態でマウスのボタンを押し、そのままマウスを移動(ドラッグ)させて、別の場所でマウスのボタンを離す(ドロップ)操作のことをいいます。

★ 重要

- 内蔵メモリーやメモリーカード内の画像に対して、パソコンで修正・削除・移動・名前の変更などを行わないでください。画像管理データと整合性がとれず、カメラで再生できなくなったり、撮影枚数が極端に変わったりします。修正・削除・移動・名前の変更などはパソコンにコピーした画像で行ってください。
- 画面を見たり保存している途中でケーブルを抜いたり、カメラやクレードルの操作を行わないでください。データが破壊される恐れがあります。

■ カメラをUSBクレードルからはずす

1. 画面上のカメラのドライブをゴミ箱へドラッグアンドドロップする
2. USBクレードルの【USB】を押し、USBランプが消灯しているのを確認してから、カメラをUSBクレードルから取りはずす

パソコンに自動で画像を保存する／画像を管理する

Mac OS Xをお使いの場合は、OSにバンドルされているiPhotoを使って静止画像の管理ができます。

Mac OS 9をお使いの場合は、市販のソフトをご利用ください。

動画を再生する

動画はMacintoshにすでにインストールされているQuickTimeで再生することができます。Macintoshに動画をコピーしてから、画像ファイルをダブルクリックして再生してください。



■ 動画再生時の動作環境

カメラで撮影した動画をパソコンで再生する場合、以下の動作環境を推奨します。

OS : Mac OS X v10.3.9以降

QuickTimeバージョン : QuickTime 7以降

★ 重要

- 上記の動作環境は推奨の環境であり、動作を保証するものではありません。
- 上記動作環境のパソコンでも、設定状態やインストールされているソフトウェアによっては、正しく動作しない場合があります。
- OS 9では動画ファイルは再生できません。

ユーザー登録をする

パソコンからインターネットを通してのみ、ユーザー登録をすることができます。「カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイト」で登録を行ってください。

ユーザー登録アドレス <http://www.casio.jp/reg/dc/>
ユーザー登録で登録いただいた個人情報のお取り扱いに関しては、Webサイト上の「ご利用になる前に」に記載されていますので、ご確認ください。ユーザー登録はデジタルカメラ本体やその他情報発信を目的としています。

メモリーカードを直接パソコンに接続して画像を保存する

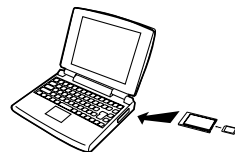
パソコンの機種によって接続方法が異なります。代表的な接続方法は次の通りです。接続後はUSBクレードル経由の接続時と同様の操作で画像の保存ができます。

■ メモリーカードスロットのある機種

ご使用のメモリーカードに対応しているかご確認のうえ、メモリーカードを直接差し込みます。

■ PCカードスロットのある機種

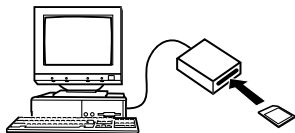
ご使用のメモリーカードに対応した市販のPCカードアダプターを使用します。具体的な使用方法是、PCカードアダプターとパソコンに付属の取扱説明書を参照ください。



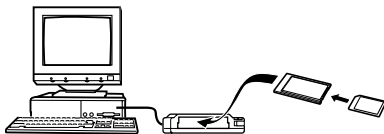
■ 前記以外の機種

以下のどちらかの方法で接続します。

- ご使用のメモリーカードに対応した市販のメモリーカード用リーダー/ライターを使用します。具体的な使用方法は、メモリーカード用リーダー/ライターに付属の取扱説明書を参照ください。



- 市販のPCカード用リーダー/ライターとご使用のメモリーカード



に対応した市販のPCカードアダプターを使用します。具体的な使用方法は、PCカード用リーダー/ライターとPCカードアダプターに付属の取扱説明書を参照ください。

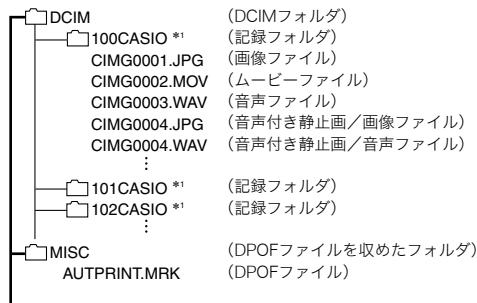
メモリー内のデータについて

本機で撮影された画像やその他のデータは、DCF (Design rule for Camera File system) 規格に準拠した方法でメモリーへ保存されます。

■ DCF規格について

DCF規格対応の機器(デジタルカメラやプリンターなど)の間で画像の互換性があります。画像ファイルのデータ形式やメモリー内のフォルダ構造に規定がありますので、本機で撮影した画像をDCF規格対応の他社のカメラで見たり、この規格対応の他社のプリンターで印刷したりすることができます。逆にDCF規格対応の他社のデジタルカメラの画像も本機で見ることができます。

■ メモリー内のフォルダ構造



<ul style="list-style-type: none"> SCENE *2 UEXV8001.JPE UEXV8002.JPE ⋮ MSCENE *2 UEXV8001.JPE UEXV8002.JPE ⋮ FAVORITE *2 CIMG0001.JPG CIMG0002.JPG ⋮ FAMILY *2 ⋮ SSBGM SSBGM001.WAV SSBGM002.WAV ⋮ STARTING.JPG *2 	<ul style="list-style-type: none"> (静止画用ベストショットフォルダ) (カスタム登録された静止画用シーンファイル) (カスタム登録された静止画用シーンファイル) (動画用ベストショットフォルダ) (カスタム登録された動画用シーンファイル) (カスタム登録された動画用シーンファイル) (お気に入りフォルダ) (記録ファイル) (記録ファイル) (顔認識撮影用ファミリー登録フォルダ) (BGMフォルダ) (BGMファイル) (BGMファイル) (起動画面ファイル)
--	--

- *1 本機のベストショットモードにはオークションサイトへの出品品を撮影する“オークション”のシーンを収録しています。このシーンを撮影した場合、記録フォルダ名は「100_AUCT」となります。
また、本機のベストショットモードにはYouTubeサイトへアップロードするのに最適な動画を撮影する“YouTube”のシーンを収録しています。このシーンを撮影した場合、記録フォルダ名は「100YOUTB」となります。
- *2 内蔵メモリー内のみ作成されるフォルダです。

フォルダ／ファイルの内容

- DCIMフォルダ:
カメラで扱うファイルすべてを収めたフォルダです。
- 記録フォルダ:
カメラで記録したファイルを収めたフォルダです。

- 画像ファイル:
カメラで撮影した画像ファイルです。拡張子は「JPG」です。
- ムービーファイル:
カメラで撮影したムービーファイルです。拡張子は「MOV」です。
- 音声ファイル:
カメラで記録した音声ファイルです。拡張子は「WAV」です。
- 音声付き静止画／画像ファイル:
音声付き静止画の画像を記録したファイルです。拡張子は「JPG」です。
- 音声付き静止画／音声ファイル:
音声付き静止画の音声を記録したファイルです。拡張子は「WAV」です。
- DPOFファイルを収めたフォルダ:
DPOFファイルなどを収めたフォルダです。
- 静止画用ベストショットフォルダ:
カスタム登録された静止画用シーンファイルを収めたフォルダです。
- カスタム登録された静止画用シーンファイル:
ベストショットモードの静止画撮影で使用されるファイルです。
- 動画用ベストショットフォルダ
カスタム登録された動画用シーンファイルを収めたフォルダです。
- カスタム登録された動画用シーンファイル
ベストショットモードの動画撮影で使用されるファイルです。

- お気に入りフォルダ:
お気に入りの画像ファイルを収めたフォルダです。320×240 pixelsの画像として収められています。
- 顔認識撮影用ファミリー登録フォルダ:
ファミリー登録された顔データファイルを収めたフォルダです。このフォルダ内のデータに手を加えると、カメラが正常に動作しなくなる恐れがありますので、消去したり編集したりしないようにご注意ください。
- BGMフォルダ:
お好みのBGMに切り替えるときに作成するフォルダです。
- 起動画面ファイル:
起動画面を記録したファイルです。起動画面を設定した場合に作成されます。

■ このカメラで扱える画像ファイル

- 本機で撮影した画像ファイル
- DCF規格に対応している画像ファイル

DCF規格の画像ファイルでも、使用できない機能がある場合があります。また、本機以外で撮影された画像の場合、再生にかかる時間が長くなる場合があります。

■ パソコン上で内蔵メモリー／メモリーカードを扱うときのご注意

- メモリーの内容をパソコンのハードディスクやCD-R、MOディスクなどに保存する際は“DCIM”フォルダごと保存してください。その際“DCIM”フォルダの名前を年月日などに変えておくと、あとで整理するときに便利です。ただし、パソコンのハードディスクなどに保存したファイルを再度メモリーに戻して本機で再生する場合は、フォルダ名をパソコン上で“DCIM”に戻してからご使用ください。本機では“DCIM”以外の名前のフォルダは認識されません。“DCIM”フォルダ内の他のフォルダ名を変えた場合も同様です。元の名前に戻してから使用してください。
- フォルダやファイルをカメラで正しく認識させるためには、メモリー内のフォルダ構造が166ページのフォルダ構造の通りである必要があります。